

2011年6月24日、25日 於：愛知県立大学

## 学術フォーラム「神獣と古代王権」と併設事業紹介

学術フォーラム「神獣と古代王権」は、本号の2、3ページにあるように2011年6月24-25日にそのワークショップが行われ、6月26日に成果の一部を一般公開の国際フォーラムとして愛知県陶磁資料館にて発表した。愛知県公立大学理事長特別研究費、若手研究者戦略的海外派遣プログラムの支援による。

ワークショップの課題は多岐にわたり、様々な研究分野の専門家が参加した。それぞれの発表についての質疑応答が行われ、さらにパネル・ディスカッションの時間をもうけた。特に今回は、アジア・アメリカ大陸の古代文明における聖なる動物とその要素を含む神々が、どのように認知され機能したかを中心に議論したが、近・現代にまで伝統として残る聖動物の例も含めた。異なった分野の専門家による学際的な集まりの為、ディシプリン間の理論・方法論上の違いを確認する作業も必要で、問題提起も多かった。

「古代王権と聖なる動物」というテーマは、それぞれの分野で地域研究課題としてとらえるべき意義あるテーマであり、同時に人類史的観点からも比較研究の重要課題である。今回の小規模なワークショップでは、そのバリエーションと、今後深めていくべき方向性の確認に留まったが、成果は十分に感じている。まず比較研究の基盤となる理論の議論からすべきで、松本・松木論文にあるように、農業・牧畜の始まりから国家形成に至るプロセスにおいて、古代人がどう動植物を認知していたかを追求する潜在的重要性は、多くの参加者が認識する成果のひとつである。

なお、25日夕べには、愛知県立大学の研究者・学生が中心となり、共同研究を行っているラス・アメリカス大学からの招待者らをまじえ、メキシコの伝統文化、メキシコ料理、踊り、ゲームなどを披露した。

併設事業である「アンデス・メソアメリカ文明展」は愛知県陶磁資料館の主催、愛知県立大学・中日新聞の共催により、2011年5月28日から7月31日まで開催された。本展示は、国内にすでに保管されているメソアメリカアンデス古代文明の代表的遺物を一挙に集めようという企画である。個人コレクションを含め、多くの遺物が日本にもあることを確認し、本展示では主に動物と生活に関わる完成品を選んだ。展示は考古遺物に限らず、現在のメキシコ先住民族や大衆の生活に残る伝統儀礼も紹介し、現地で活躍する研究者による講演会も催し、陶磁資料館のテーマ展示としては、最大規模の入場者数を記録した。今後も陶磁資料館とタイアップし、学術フォーラム、展示会、そして学生一般が参加する研究・教育プログラムを企画していきたい。



イントロダクション(杉山三郎：愛知県立大学)にて、環太平洋古代文明の領域における体系的な学際的研究への試みを表明。



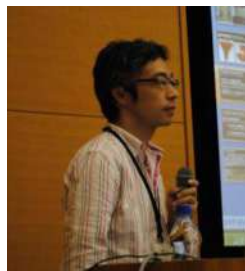
渡部森哉(南山大学)、クリストフ・マコフスキ(ペルー・カトリック大学)



松本直子(岡山大学)



森達也(愛知県陶磁資料館)



佐藤吉文(国立民族学博物館)



吉田裕彦(天理大学附属天理参考館)



パトリシア・プランケット(メキシコ、ラス・アメリカス大学)



ワークショップでのディスカッション風景



発表に耳を傾ける参加者たち

## ～メキシコのタベ～

於：愛知県陶磁資料館



開会挨拶：佐々木雄太学長(愛知県立大学)、北川明夫館長(陶磁資料館)



サルサ教室「マコンド」のリードで盛り上がる参加者たち



メキシコのピニャタわりを体験 (モチーフ：日本の神獣)



「古代メソアメリカ・アンデス文明への誘い」  
(風媒社) 著者による出版記念挨拶  
(左より嘉幡茂、杉山三郎、渡部森哉)

2011年5月28日～7月31日 於：愛知県陶磁資料館

## 併設事業：「アンデス・メソアメリカ文明展 —古代の暮らしと聖なる動物たち—」



オープニングセレモニーには在名古屋ペルー共和国総領事館より領事も列席。



特別展覧会の監修者紹介（左より小林貴徳、佐藤吉文、嘉幡茂）



会場入り口では「羽毛の生えたヘビ」が来場者を待つ。



展示会場風景



展示会場風景



展示会場風景



石彫、模型、拓本などの展示風景



メキシコ「死者の日の祭壇」も再現された。



本展覧会を記念する展示カタログ「古代メソアメリカ・アンデス文明への誘い」  
発行：風媒社

2011年6月26日 於：愛知県陶磁資料館(一般公開)

## 国際フォーラム 「古代アンデス・メソアメリカの暮らしと聖なる動物たち」



クリストフ・マコフスキ  
(ペルー・カトリック大学)



渡部森哉(南山大学)



ガブリエラ・ウルニユエ  
ラ (メキシコ・ラス ア  
メリカス大学)



杉山三郎 (愛知県立大学)

2011年7月10日、17日 於：愛知県陶磁資料館(一般公開)

## 併設事業「アンデス・メソアメリカ文明展 —古代の暮らしと聖なる動物たち—」講演会



小林貴徳 (愛知県立大学客員共同研究員)



嘉幡茂 (愛知県立大学客員共同研究員)





## 編集後記

学術フォーラム「神獣と古代王権」は下記の実行委員メンバーの協力により、成功裏に修めることができました。(敬称略) 谷口智子(県大准教授)、嘉幡茂(県大客員共同研究員)、小林貴徳(県大客員共同研究員)、佐藤吉文(県大客員共同研究員)、刑部理恵(県大多文化共生研究所：経理)、林千枝子(県大多文化共生研究所：事務)、岩崎賢(県大非常勤講師、通訳)、サウセド・ダニエル(通訳)、渡部森哉(南山大学准教授)、県大院生の丹羽悦子、千葉裕太、槌田哲也、堀この美、学部生の田中絵梨奈、岸原正徳、清水沙那美各氏の献身的なご協力に深くお礼申し上げます。また、愛知県公立大学法人笹津恭土理事長、愛知県立大学佐々木雄太学長、多文化共生研究所稲村哲也所長の温かいご支援、また的確なアドバイスを様々なご配慮に深く感謝いたします。併設事業では愛知県陶磁資料館主任学芸員の森達也先生(県大非常勤講師)をはじめ資料館のスタッフの方々、国立民族学博物館の関雄二先生、BIZEN 中南米美術館の森下矢須之館長、また天理大学附属天理参考館、光記念館、タカヨシ・メキシコ美術館の皆さまのご好意により展示品の数々を一同に集め、特別展示が開催できました。ありがとうございました。また杉山の個人的な出来事や自身の病気により本の出版が遅れたこと、関係者の方々に深くお詫びします。小さなステップですが、何かしらの貢献が感じられる号となれば幸いです。皆様方の御協力に深くお礼申し上げます。

(編集者代表：杉山三郎)

---

共生の文化研究 7 (愛知県立大学 学術フォーラム 開催記念特集号)  
神獣と古代王権 Sacred Animals and Ancient Rulership

---

2012年3月31日発行

編集・発行 愛知県立大学 多文化共生研究所

7号編集者：杉山三郎、丹羽悦子

住所 〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522 番 3

代表 稲村哲也 (INAMURA Tetsuya)

E-mail: [inamura@for.aichi-pu.ac.jp](mailto:inamura@for.aichi-pu.ac.jp)

印刷 株式会社シイエム・シイ

---

Journal of Cultural Symbiosis Research No.7

(Special issue for the Memory of Academic Forum in APU)

Sacred Animals and Ancient Rulership

---

Published: March 31, 2012

Published by: Aichi Prefectural University, CSRI (Cultural Symbiosis Research Institute)  
1522-3 Ibaragabasama, Nagakute-shi, Aichi, 480-1198, JAPAN

Editors of Volume 7: Saburo Sugiyama and Etsuko Niwa

Director of CSRI: Tetsuya Inamura ([inamura@for.aichi-pu.ac.jp](mailto:inamura@for.aichi-pu.ac.jp))

©Aichi Prefectural University, CSRI

Printed by: CMC CORPORATION

---





---

表紙:

テオティワカンの壁画に描かれたワシの図像。本大学「月のピラミッド」発掘プロジェクトにおいて、生贄体の副葬品としてワシの骨も「戦い」の象徴品を伴って発掘されていることから、ピューマ、オオカミとともに戦士のシンボルと思われる。

(杉山三郎)

裏表紙:

龍は現代中国を象徴する神獣であるが、宋王朝から清王朝までの歴代王朝では、国家の中心となる皇帝を象徴する神獣として位置づけられていた。

(森 達也)

---